

旅行会社とネットエージェントが 投票で選んだ「にっぽんの温泉100選」

第24回 にっぽんの温泉100選

順位	昨年	温泉名	所在地	得票	順位	昨年	温泉名	所在地	得票
1	1	草津	群馬	791	51	81	石和	山梨	291
2	2	登別	北海道	765	52	68	玉川	秋田	272
3	3	由布院	大分	663	53	57	黄金崎不老ふ死	青森	267
4	4	黒川	熊本	624	54	52	強羅	神奈川	262
5	7	指宿	鹿児島	602	55	44	湯西川	栃木	250
6	5	別府八湯	大分	599	56	49	別所	長野	243
7	9	下呂	岐阜	587	57	54	高湯	福島	238
8	6	道後	愛媛	575	58	71	勝浦	和歌山	225
9	8	有馬	兵庫	567	59	69	花巻	岩手	219
10	10	城崎	兵庫	559	60	56	日光湯元	栃木	211
11	12	箱根湯本	神奈川	550	61	60	河口湖	山梨	208
12	11	和倉	石川	543	62	53	知床・ウト口	北海道	204
13	13	乳頭温泉郷	秋田	529	63	64	皆生	鳥取	200
14	14	雲仙	長崎	522	64	67	長湯	大分	197
15	16	奥飛騨温泉郷	岐阜	507	65	58	湯村	兵庫	195
16	18	伊香保	群馬	494	66	65	宇奈月	富山	191
17	15	十勝	北海道	486	67	84	層雲峡	北海道	187
18	17	湯の川	北海道	475	68	80	あつみ	山形	182
19	25	嬉野	佐賀	469	69	63	あわら	福井	177
20	24	秋保	宮城	461	70	86	下田	静岡	170
21	21	玉造	島根	454	71	-	武雄	佐賀	168
22	46	高山	岐阜	452	72	59	観音	静岡	164
23	20	鬼怒川・川治	栃木	445	73	77	蔦青	森	161
24	19	鳴子	宮城	440	74	76	作並	宮城	156
25	31	熱海	静岡	436	75	75	那須	栃木	151
26	29	霧島	鹿児島	431	76	72	かみのやま	山形	148
27	26	白骨	長野	427	77	91	阿蘇	熊本	133
28	23	万座	群馬	416	78	79	瀬波	新潟	117
29	36	月岡	新潟	409	79	77	堂ヶ島	静岡	105
30	34	湯田中	長野	406	80	73	西山	山梨	102
31	33	三朝	鳥取	401	81	-	つなぎ	岩手	96
32	30	修善寺	静岡	394	82	-	菊池	熊本	94
33	37	白浜	和歌山	382	83	74	水上	群馬	89
34	35	四万	群馬	378	84	94	越後湯沢	新潟	87
35	22	蔵王	山形	375	85	-	仙石	神奈川	83
36	27	阿寒湖	北海道	370	92	92	榊原	三重	83
37	42	昼神	長野	370	87	82	母畑	福島	77
38	43	酸ヶ湯	青森	363	88	88	浜名湖かんざんじ	静岡	73
39	28	銀山	山形	357	89	-	平山	熊本	71
40	38	定山渓	北海道	351	90	-	下賀茂	静岡	67
41	45	長門湯本	山口	347	47	47	祖谷	徳島	67
42	32	山代	石川	344	92	-	二セコ温泉郷	北海道	64
43	41	川湯	北海道	335	-	-	九重温泉郷	大分	64
44	62	稲取	静岡	333	94	-	松川	岩手	60
45	40	こんぴら	香川	326	95	88	東山	福島	59
46	51	野沢	長野	321	96	-	古湯	佐賀	56
47	55	湯河原	神奈川	314	97	-	龍神	和歌山	55
48	50	洞爺湖	北海道	308	98	96	熱川	静岡	53
49	39	山中	石川	299	-	-	天ヶ瀬	大分	53
50	48	伊東	静岡	293	100	-	下	山梨	50

「にっぽんの温泉100選」



草津温泉の「熱の湯」で行われている湯もみ



登別温泉の「火の湯」で今年開催のイベント「鬼火人」。地獄谷を舞台に鬼たちが豪華な手筒花火を打ち上げる。

地域の取り組みの差が順位に

前回と同様に草津温泉（群馬県）、登別温泉（北海道）、由布院温泉（大分県）がトップ3を占めた第24回「にっぽんの温泉100選」（1面参照）。ベスト10内を見ると、4位までが前回と同位のほか、変動があっても上動2位の幅と大きな動きはない。一方、11位以下では今年の温泉地模様も反映された浮き沈みがあった。トップ3以外の動きを見てみよう。

由布院の蛇越峠からの朝霧



ベスト10の変動

黒川温泉（熊本県）が指宿温泉（鹿児島県）を退けて4位を維持した。温泉100選は旅行会社の投票によって決まるため、大量送客が可能な大型の旅館・ホテルの多い温泉地が選ばれやすい。小規模旅館がほとんど由布院温泉や黒川温泉はそんな逆風をはねのけて順位を確保している。

前回の7位から上昇し、万座温泉（群馬県、23位）の2カ所だった。下位になればなるほど、得票数が少なく、得票数81↓51位、武雄温泉（佐賀県、ランク外71位）が上昇、組合温泉（徳島県、47↓90位）が31位から50位まで10ランク以上の変動に注目した。審査会では「上昇して下位の温泉地を高く評価する声が増える」と、ランク以上の変動に注目し、審査会では「上昇して31位から50位まで10ランク以上の変動に注目した」と、審査会では「上昇して下位の温泉地を高く評価する声が増える」と、ランク以上の変動に注目した。

投票いただいた主な旅行会社（順不同）

JTBグループ各社、KNTグループ各社、日本旅行グループ各社、トップツアー、タビックスジャパン、クラブツーリズム、読売旅行、東武トラベル、JALグループ各社、ANAセールス、スカイパッ

観光経済新聞におまかせください

永年、全国で観光地活性化座談会を展開した実績は、比類ないものです。座談会やシンポジウムの実施をとおりて地域にふさわしい方向を、座談会によって導き出すお手伝いをします。

行政+観光産業+地域内産業+住民=観光交流の拡大



域内4者座談会シンポジウム開催のご提案

観光関連事業者だけの観光産業ではない地域内の一般産業も観光と無縁ではない住民もステータイなければ観光地ではない

観光資源とは、景勝地や名所旧跡だけではありません。いま、求められているのは、ありのままの日常から得られる共感や感動です。あるいは、日常の衣食住の生産プロセスを自ら確信し、安心することです。そうした地域や場所が、観光客を呼び込み、地域経済が拡大します。第1歩は、新たな観光資源づくりに向けた地域全体のコンセンサスです。それは、4者が同じテーブルについて対話することから始まります。